

◎ 釐同盟通信社第二十三回理事會議事錄

昭和十七年二月六日午前十一時四十分開會、同午後零時三十分閉會

會場 東京市麴町區內幸町一丁目一番地 帝國ホテル

理事總員 參拾八名

出席理事 貳拾六名

後川	小森	築田	高田	小柳	一力	田中
晴之助	七郎	欽次郎	元三郎	調平	次郎	都吉
清水	阿部	山田	田中	大島	伊豆	野中
順治	暢太郎	金次郎	秋聲	一郎	宮人	楠吉
杉山	宮崎	山本	田中	高石	林政	阿部
榮	男	實一	齊	眞五郎	武	良夫

社団法人 同盟通信社

光永眞三 古野伊之助 畠山敏行

上田碩三 堀義貴

古賀傳吉 (常務監事) 福田恭助 (監事)

委任狀 拾名

井上廣居 原田讓二 萩野元太郎

河村徹 小坂武雄 美土路昌一

御手洗辰雄 森一兵 關正雄

末光鐵之助

議長 理事會長 田中都吉

會議經過

田中議長開會ヲ宣シ先ヅ新理事宮崎光男氏 (讀賣新聞社) ヲ紹介シ

タル後議事ニ入ル

一、昭和十七年度收支豫算案ノ件

古野社長ヨリ別紙昭和十七年度一般會計並ニ特別會計ニ付其ノ大要及新規事業計畫案ノ内容ヲ説明シ採決ノ結果滿場一致本豫算案ヲ可決承認シタリ

二、諸般ノ報告

(イ) 理事異動ノ件

定款第二十一條第一項第一號ニ依ル理事柴田勝衛氏(讀賣新聞社)二月三日附辭任、後任理事ニ宮崎光男氏(同社編輯局長)就任

(ロ) 社員新聞社異動ノ件

第二十二回理事會報告後新加盟社八社、合併又ハ廢刊ニヨ

社 同 盟 通 信 社
法 人

ル退社十二社ニシテ本年二月五日現在社員總數八百三十五社ナリ

△新加盟社(八社)

根室合同新聞社(根室市) 昭和十六年三月 十二日

交通日日新聞社(東京市) 同 年三月 十六日

德島新聞社(德島市) 同 上

日本紡織新聞社(東京市) 昭和十七年一月 四日

産業厚生時報社(大阪市) 同 年一月 十日

機械工業新聞社(東京市) 同 年一月 十四日

和歌山新聞社(和歌山市) 同 上

神奈川新聞社(横濱市) 同 年二月 一日

△退社(十二社)

濱松新聞社(濱松市) 昭和十六年十二月 末日

德島新聞社（德島市）	昭和十六年三月十五日
德島日日新報社（同上）	同上
弘前新聞社（弘前市）	同年三月二十五日
八戸合同新聞社（八戸市）	同上
北國夕刊新聞社（金澤市）	同年三月末日
防長新聞社（山口市）	昭和十七年一月末日
ジャパン・クロニクル社（神戸市）	同上
日刊商業新聞社（大塚市）	同上
神奈川縣新聞社（横濱市）	同上
神奈川日日新聞社（横須賀市）	同上
三重新聞社（四日市市）	同上

(ハ) 同盟本社移轉ノ件

社団法人 同盟通信社

本社社業ノ發展ニ伴ヒ社屋ハ益々狹隘トナリ各局各所ニ分散シ、不便尠カラザリシヲ以テ豫テ現業理事ニ御一任ノ社屋對策トシテ一先ヅ日比谷公園市政會館內當社借室ニ移轉斷行、去ル一月十二日編輯、通信、經濟各局及調査局ノ一部ハ同會館地下室ニ、又役員室、總務局其他ノ一部ハ同四階ニ夫々移轉ヲ完了セリ

尙之ト同時ニ調査局出版部ハ從來ノ市政會館ヨリ銀座西七丁目同盟分館內ニ移轉セシガ更ニ當社所有內幸町舊聯合社跡ノ土地ニバラック建造ノ計畫ニテ竣工ノ上ハ役員室、總務局各部其他ヲ收容ノ豫定ナリ

(ニ) 職制改正ノ件

時局下益々増大スル當社ノ使命達成ニ遺憾ナキヲ期スル爲

ノ各局部名ノ改廢ヲ行ヒ、之レニ伴フ職制ノ一部ヲ改正、
去ル十二月五日ヨリ實施セリ

(ホ) 海外支局新設豫定地ノ件

西南太平洋上ニ於ケル戰局ノ進展ニ伴ヒ皇軍占領地域ニ漸
次支局開設ノ豫定ナルガ其ノ豫定地左ノ如シ

ピナン支局

ダヴァオ支局

チモール支局

タラカン支局

メナド支局

ラングーン支局

(ニ) 國內支局新設並ニ廢止ノ件

社団法人 同盟通信社

國內同報無線増設並ニ之レガ準備ノタメ左記支局ヲ新設、
又豐橋支局ハ經濟通信購讀者激減ノタメ廢止セリ

△新設

盛岡支局（昭和十七年一月開設）

花蓮港支局（同上）

高雄支局（同上）

目下開設準備中ノモノ

静岡支局

室蘭支局

△廢止

豐橋支局（昭和十七年一月末限閉鎖）

(ト) 通信部新設ノ件

國內通信網擴充強化ノタメ從來支社局ノ存置セザル左記都市ニ通信部ヲ設置スル外全國ニ亘リ通信員約四百名ヲ囑託シテ細胞組織ニヨル通信網ヲ確立シ以テ銃後ノ通信報道ニ遺憾ナキヲ期セントスルモノナリ

横須賀 通信部

山口 通信部

佐賀 通信部

(ハ) 京阪神區間専用電話開通ノ件

市外専用電話幹線ニヨル通信輻輳緩和ノタメ大阪、京都、神戸三支局間ヲ連接スル市外専用電話線ヲ新設、去ル一月一日ヨリ開通セリ

(リ) 戦況寫眞空輸ノ件

今次對米英戦争ノ重大意義ニ鑑ミ先般朝日、大毎(東日)兩社ノ協力ヲ得、三社所有ノ長距離大型輸送機各一機ヲ供出し陸海軍報道部、陸海航空本部指導援助ノ下ニ「新聞航空通信班」ヲ結成、戦況寫眞原稿ノ共同空輸ヲ行ヒ之ヲ廣ク全國各社ニ配布シ以テ銃後報道ノ速報ニ遺憾ナキヲ期スルコトトセリ、而シテ之等ニユース寫眞原稿空輸ハ遠距離ナルノミナラズ相當多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ從來ノ同盟機經常費分擔金ノ外受益者分擔ノ建前ニヨリ特別空輸料ノ負擔ヲ願ヒタル次第ニシテ更ニ戦局ノ進展擴大ニ伴ヒ益々其ノ機能ヲ發揮シ以テ參加各社ノ御期待ニ副フベク努力中ナリ

以上各項ニ付古野社長ヨリ詳細報告シ、出席理事一同之ヲ諒

社
團
法
人

同盟通信社

承ス、次デ古野社長ヨリ更ニ

(又)社費月額調整基準ノ件

社員新聞社及放送協會ノ社費月額調整ニ關シテハ豫テ現業理事ニ於テ慎重考究ヲ重ネ、最モ公正妥當ナリト思考セラ
ルル別紙基準ニ依リ漸次調整ヲ行ヒタル結果、今日マデ既
ニ百十一社ハ本基準ニ適合シ、殘餘ノ二十五新聞社及放送
協會ニ對シテハ何レ個々ニ御相談申上ゲタキニ付其ノ節ハ
何分ノ御協力ヲ御願ヒ致シタシ

トノ報告ヲ爲シ且諒解ヲ求メタルガ山田(金次郎)理事ヨリ放送
協會ノ社費月額及借入金ノ利拂ニ關シ質問アリ、古野社長應答ノ
後一同之ヲ諒承閉會ス

終ツテ田中議長ハ出席理事一同ニ對シ「私ハ本日限り中外商業新

社
國
人
法
同
盟
通
信
社

報社社長ヲ辭任スルコトナリタリ、從ツテ同盟理事及理事會長
モ自然消滅スル次第ニシテ昭和十一年以來今日迄理事會長ノ職ヲ
汚シ、其ノ間賜ハリタル諸君ノ御同情、御支援ヲ深ク感謝スル旨
述べ、會長辭任ノ挨拶ヲ爲シタリ、之ニ對シ古野社長ヨリ「田中
會長ガ本日中外社長ヲ辭任サレタコトハ全然知ラズ只今承ハリタ
ル次第ナルガ、御事情止ムヲ得ザルモノト認メテ同會長ニ對スル
感謝方法及後任會長ニ關シテハ追テ各理事ト御相談シテ決定願フ
コトトシ、田中會長ガ同盟設立育成ノタメ又理事會長トシテ今日
迄賜ハリタル絶大ナル御盡力ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スルト共ニ
今後共一層ノ御支援ヲ依頼スル」旨ノ挨拶ヲ終リ一同午餐ヲ共ニ
シテ散會セリ

以
上

議 長
理 事
理 事

田中 水順
田中 水順
田中 水順

社 團
法 人
同 盟 通 信 社

昭和十七年度收支豫算

一 般 會 計



收 入 之 部		支 出 之 部	
新聞通信收入	4,665,240.00	總 體 費	1,895,580.00
經濟通信收入	1,629,920.00	本 社 費	1,697,880.00
海外通信收入	5,356,500.00	國內支社局費	1,855,752.00
通信外諸收入	248,640.00	海外總支社局費	3,766,560.00
受入手數料	42,000.00	國內電信電話費	812,720.00
		海外電信電話費	1,808,768.00
特別會計 出版部剩餘金繰入	40,320.00	特別會計 寫真部缺損金補填	179,100.00
小 計	11,992,620.00		
當 期 缺 損 金	23,740.00		
計	12,016,360.00	計	12,016,360.00

特 別 會 計

	收 入	支 出	過 不 足
出 版 部	715,200.00	674,880.00	收入超過 40,320.00
寫 真 部	524,400.00	703,500.00	支出超過 179,100.00
計	1,239,600.00	1,378,380.00	支出超過 138,780.00

◎社費月額調整基準

社員新聞社及放送協會の社費月額は左記基準に依る

一 毎年三月現在の新聞社の發行部数及放送協會の放送聴取者数

五萬未満

一萬毎に

金五百圓

五萬以上十萬未満

五萬を越ゆる一萬毎に

金四百圓

十萬以上十五萬未満

十萬を越ゆる一萬毎に

金三百圓

十五萬以上二十萬未満

十五萬を越ゆる一萬毎に

金二百圓

二十萬以上

二十萬を越ゆる一萬毎に

金百圓

一 ニユース供給の爲め特に多額の経費（電信電話費、支社局費等）を要する場合には前號の基準に依る外之に相當する社費月額を増額を爲すものとす。

以上

◎社費月額調査基準に依る計算表

發行部數	社費月額	發行部數	社費月額
一萬部	五〇〇圓	十二萬部	五一〇〇圓
二萬部	一〇〇〇圓	十三萬部	五四〇〇圓
三萬部	一五〇〇圓	十四萬部	五七〇〇圓
四萬部	二〇〇〇圓	十五萬部	六〇〇〇圓
五萬部	二五〇〇圓	二十萬部	七〇〇〇圓
六萬部	二九〇〇圓	二十五萬部	七五〇〇圓
七萬部	三三〇〇圓	三十萬部	八〇〇〇圓
八萬部	三七〇〇圓	四十萬部	九〇〇〇圓
九萬部	四一〇〇圓	五十萬部	一〇〇〇〇圓
十萬部	四五〇〇圓	百萬部	一五〇〇〇圓
十一萬部	四八〇〇圓	百五十萬部	二〇〇〇〇圓

以上